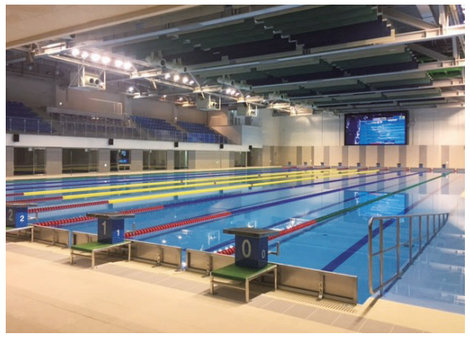
TOPIC

韓国 / 城南スポーツセンター
ヤマハFRP50mプール納入

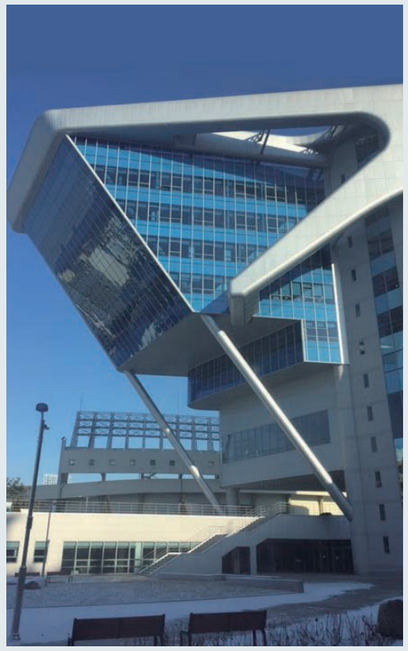
城南市が体育施設拡充事業の一つとして進めてきた、総合スポーツセンターが2016年12月に竣工しました。地上7階、地下3階、延べ床面積33471㎡の大型市民体育施設です。施設の目玉となる50m×10コースのメインプールに、ヤマハのFRPプールが採用されました。多目的体育館やスタジオ、ジム、ゴルフ練習場など、様々な施設が備えられています。総合スポーツセンターは17年4月にオープンの予定で、市民の健康増進や生活の質の向上にヤマハのFRPプールが貢献することになります。

韓国では、2013年に初めてヤマハFRPプールをジンチョンスポーツセンターへ納入しました。以降、毎年実績を重ね、城南スポーツセンターが5基目になります。2017年1月には、院洞（ウォンドン）の小学校で初めての学校向けプールの施工が完了し、今後、韓国でもヤマハのスクールシリーズプールの活躍が期待されます。



城南市 総合スポーツセンター 50mプール

院洞（ウォンドン） 小学校プール



城南市 総合スポーツセンター

営業所のご案内 プールのことならお気軽に

ヤマハ発動機株式会社 プール事業推進部 TEL 053-594-6512 〒431-0302 静岡県湖西市新居町新居3078

東京営業所
販　売　課 TEL.03-3454-2434
〒108-0023 東京都港区芝浦3-5-39 田町イーストウィングビル3F
東北販売課 TEL.022-301-7102
〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台ビル3F
中部販売課 TEL.052-218-4366
〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1-17-26 ラウンドテラス伏見4F

西日本営業所
販　売　課 TEL.06-6268-0520
〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町3-4-16 船場オーセンビル4F
九州営業所
販　売　課 TEL.092-472-7815
〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-13-10 スピリッツ福岡D

www.yamaha-motor.co.jp/

PRINTED WITH SOY INK
210075

swim 水夢 THE WATER POOL MAGAZINE「季刊誌・水夢」Vol.45
発行 ヤマハ発動機株式会社プール事業推進部

YAMAHA Revs Your Heart

swim 水夢

Vol.45
www.yamaha-motor.co.jp/

CONTENTS

1 GOTCHA! WELLNESS ごっちゃ！ウェルネス
3 福島県二本松市 城山市民プール
5〜7 立命館大学びわこ・くさつキャンパス ＢＫＣスポーツ健康コモンズ
9 事例紹介 大水深訓練用プール

地域とつながるプール

GOTCHA! WELLNESS
「ごちゃまぜ」が創る健康な町

二本松市城山市民プール
震災復興　子どもたちと家族の笑顔

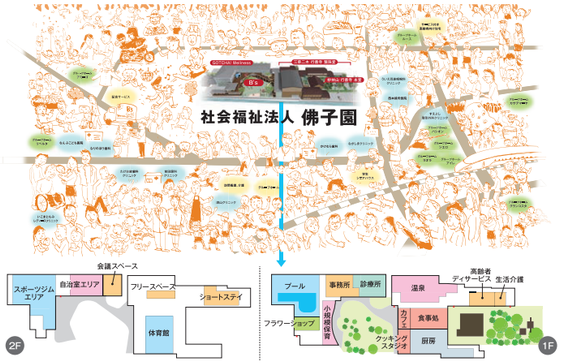
BKC スポーツ健康コモンズ
大学スポーツ施設の新たな可能性

事例紹介 福岡県消防学校水難救助訓練施設

GOTCHA! WELLNESS ゴッチャ！ウェルネス

石川県白山市
社会福祉法人 佛子園

人をつなぐ。地域をつなぐ。B’sプロジェクト



社会福祉法人佛子園は、1960年に宗教法人「行善寺」より土地・建物の寄付を受けて、知的障がい児の入所施設から始まりました。現在は、障がい者や高齢者福祉、就労支援に関わる多くの施設の運営と地域に密着した福祉サービスを提供しています。2014年にオープンしたシェア金沢は、地方活性化の新たな取り組みとして全国から注目されています。
その考え方の中心にあるのは「ごちゃまぜ」が生み出すちからです。障がい者、高齢者、健康な人、みんながごちゃ混ぜにあつまり、関わり合うことで始める街づくり。多機能地域医療福祉の住民自治モデルとして、2016年10月に発祥の地で、新施設のオープンと新たなサービスを開始したのがB’sプロジェクトです。

GOTCHA! WELLNESSが目指す「日本初！地域密着型ウェルネス」

このロゴマークは
赤ちゃんの頃から健康づくりを行う
ことができ、杖をついたお年寄りでも
みんな元気になるという意味が
込められています

統括マネージャー　野竹 厚さん

GOTCHA! ＝ ごちゃまぜ

障がいのある方・地域の方、会員、スタッフなど全ての住民が、ごちゃまぜに関わりながら健康な街づくりに取り組み、一人ひとりの健康状態を見守るウェルネスです。

みんながみんなを支え合うウェルネス

「支援サービスを利用している子供たちが騒いでいると、会員のお客様が注意してくれます。子供たちはそれで、社会のルールを学ぶことができますし、お客様にも子供たちの特性や個性を知ってもらえます。人がつながっていきます。」（野竹さん）

健康促進を軸に多世代が共生できる街へ

ここでは、さまざまな人がごちゃ混ぜに利用するため、住民一人ひとりの健康カルテを作成し、身体の悩みだけでなく、生活全般の相談にも対応します。
「地域の高齢者にはもっと元気になってほしいですね。まず、家を出てここにきてもらう。何もしなくてもいいんです。それが、ウェルネスであり、健康という要素を生活に取り入れることになると思います。」（野竹さん）

「最高の環境でごちゃまぜの空間を創りたい。」という想いが反映されたプール室は、落ち着いた色調でまとめられ、自然なやさしさを感じます。20m×2コースに半円形の運動ゾーンが設けられています。プールの床は、ヤマハのアクウォークが採用されました。
「プールはすべての人が楽しめて、運動をする機能が満足できるように考えられました。特に滑りにくい床は安心ですね。子供たちは本当に水が大好きです。プールを使い始めて1週間もすると、子供たちの表情がどんどん変わってきました。運動やスポーツが子供たちの発達に与える効果は、とても大きいなと実感しています。今後は、プールのプログラムや人材の育成など地域の方と一緒に作り上げていきたいと思います。」（野竹さん）

リゾートプールを感じさせるプールサイドファニチャー

プールサイドからも出入りできる花屋さん。B’s Flower

二本松市城山市民プール

福島再生加速化交付金事業

福島県二本松市
二本松市 建設部 建築住宅課

二本松市は、福島県の中通り北部に位置し、郡山市と福島市の中間にあります。そのシンボルのひとつ、二本松城（霞ヶ城）は、この地で秀吉の時代から戊辰戦争まで奥州攻防の要として重要な役割を果たしてきました。江戸時代には丹羽氏十万七百石の城下町として栄え、土木や建築の工事技術も進み、今で言う再開発がこの時代にすでに行われていました。
二本松市は、歴史、文化、芸術、と豊かな自然が交じり合う暮らしやすい街として発展してきました。

2011年3月に発生した東日本大震災。この地域も震度6弱を記録し、多くの建物や都市インフラが被害を受けました。何より人々を不安にさせたのは直線距離にして57kmにある福島第一原子力発電所の事故でした。

安全・安心のまちづくり

二本松市建設部首席参事の渡邉文保氏にお話を伺いました

子どもたちが安心して運動ができる場所

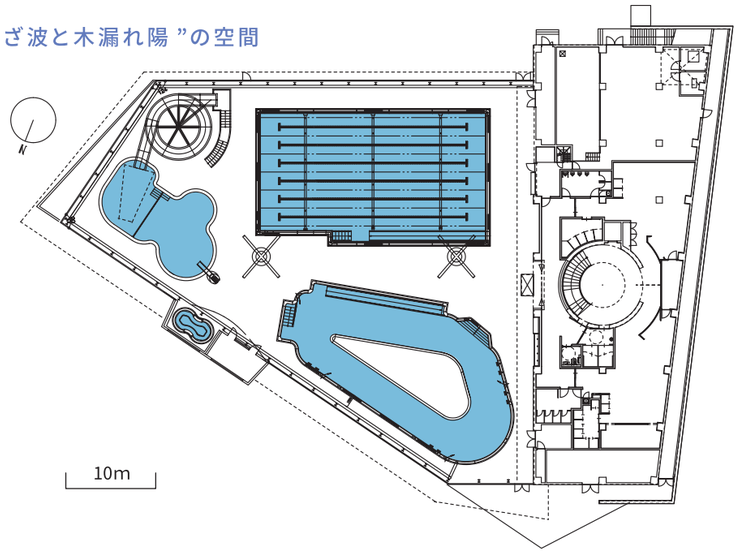
「原子力発電所の事故による放射能汚染には多くの市民が不安を感じていました。子どもたちに屋外での運動を控えさせる親御さんも多かったと思います。学校でのプール授業も保護者の了解をもらった子どもたちだけが授業を受けるといった状況でした。当時はクラスの半数が、プールに入らないという意思がありました。」（渡邉氏）

震災以降、原発事故の被害があった地域では、子どもたちが運動する機会が大きく奪われ、ストレスや運動不足による子どもたちへの健康被害や運動能力の低下が心配されました。既存の市民プールは屋外型のため、2011年は休止。2012年に再開しましたが、利用者は、震災前と比べて半減しています。市民から、早期の屋内プールの建設が望まれていました。

子どもたちが元気になるためのシンボル

「子どもたちが安心して遊んだり運動したりできる施設の整備は急務でした。子どもたちが元気になることが、復興、そして安心・安全のまちづくりの大きなポイントです。そのシンボルとしてこの屋内温水型の新市民プールが計画されました。」（渡邉氏）

“さざ波と木漏れ陽”の空間



施設規模

延床面積 約3460㎡
建築面積 約3110㎡

25mプール 6コース
└ 水面積345㎡ 水深1.1m

流水プール
└ 水面積300㎡ 水深1.0m

幼児用プール
└ 水面積56㎡ 水深0.5m

着水プール
└ 水面積36㎡ 水深0.9m

ウォータースライダー
└ 滑走長さ33m 落差3.7m

APPEARANCE 外観

震災発生から2年後の平成25年に、屋内温水プール施設整備検討委員会が開かれ、8月には建設場所が決定しました。同時に、福島定住等緊急支援交付金（子ども元気復活交付金）の活用が決定し、10月に基本計画に着手、27年5月に着工しました。
建物の外観は、二本松城跡の石垣がイメージされています。敷地・建物の形状も、二本松城の天守台にとてもよく似ています。

INTERIORS 内観

大断面の集成材を使ったプール空間は、それを支える2本の柱と、腕木の広がりが自然界の構造をイメージするとともに、あたたかな優しい雰囲気をつくりだします。
2階エントランスホールにつながるギャラリーからは、プール室全体を見渡すことができ、ダイナミックな空間構成を楽しむことができます。

子どもたちに早く使ってもらいたい

「このプールは、みんなが集える場所です。おじいちゃん、おばあちゃんはプールに入らなくても、ギャラリーから子どもたちの様子をみることができます。家族でゆっくり過ごせて、そして、水に親しんで健康増進もできる、そんな施設をめざしています。子どもたちに早く泳いでもらいたいですね。」（渡邉氏）

施設は、平成29年の春にはオープンの予定です。霞ヶ城公園のさくらが満開のころに、復興のシンボルのひとつとなる新温水プールで子どもたちの元気な歓声が聞こえることになります。

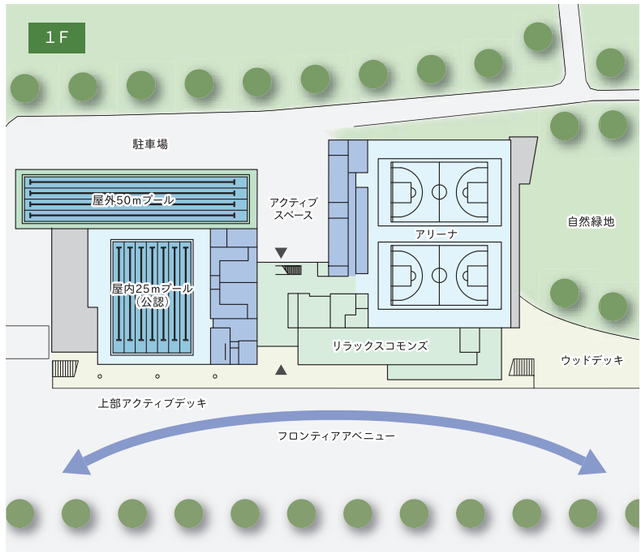
立命館大学「BKCスポーツ健康コモンズ」

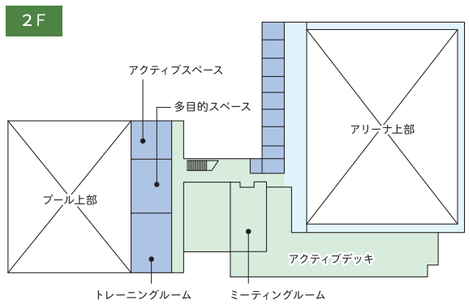
滋賀県草津市
立命館大学 びわこ・くさつキャンパス

1994年4月に立命館大学の新しい教育・研究の拠点として開設されたびわこ・くさつキャンパス（以下BKC）は、琵琶湖の南東、滋賀県が整備を進める「びわこ文化公園都市」の一角にあります。BKCは、国際水準の「文理融合型キャンパス」の創造を目指し、常に新たな教育研究システムの開発に努めるとともに、産・官・学、地域との連携による研究、新産業の創出にも積極的に取り組んでいます。
2010年には、スポーツ健康学部・スポーツ健康科学研究科が設置されました。また、「立命館大学スポーツ宣言」（2014年9月）では、スポーツの持つ力と役割を示し、スポーツを学園づくりの重要な要素として位置づけています。その理念を具現化し、学内外に示していく仕掛けのひとつが、「ＢＫＣスポーツ健康コモンズ」です。

「スポーツ健康コミュニティ」を実現するために

正門を抜けると、一目でその広大なキャンパスを感じることができます。0.5km程もありそうなフロントアベニューがまっすぐに伸び、その先の学舎がアイストップとなって、大学のキャンパスイメージが膨らみます。この周辺一帯は、BKCフロントゾーンとして位置づけられており、「ＢＫＣスポーツ健康コモンズ」は、建学の精神に則ったスポーツ健康コミュニティの創造と実現を図る、キャンパス内におけるスポーツ健康コミュニティの中核的な場となることを目指し整備されました。
スポーツや健康をイメージさせる軽快さと、自然に溶け込むやさしさが表現された建物は、まさに新しいキャンパスの顔といえます。





施設規模
延床面積 4,824.93㎡
建築面積 4,025.22㎡

屋内25mプール
└ 7コース（公認）

アリーナ
└ バスケットボールコート2面

トレーニングルーム・アクティブスペース・ミーティングルーム・多目的スペース

屋外 50mプール
└ 4コース

自分たちのライフスタイルを創り出す場所

右：長積 仁 教授
左：安原 壮一 課長補佐

多くの人たちが交流し、スポーツを楽しむ共有地への思いを込めた「BKCスポーツ健康コモンズ」。スポーツ健康科学部 教授・副学部長 長積 仁先生、学生部の安原 壮一課長補佐のお二人にお話を伺いました。
「従来の大学スポーツ施設は、どうしても体育会や課外活動が中心の施設になってしまいます。ここは、一般の学生や教職員、地域の皆様など、学校に係わるすべての人が交流し、スポーツを楽しめる共有地であってほしいと思っています。特に学生は自分たちで健康づくりやスポーツ活動をプロデュースする力を今から身に着けることが必要です。それが社会に出てからもスポーツに係わり、また、続けて行くことに繋がります。これは、決まりごとの制約がある公共スポーツ施設などではなかなか難しいことですね。
ここには、自分たちの想像力で新しい価値観を発見し、自らの健康ライフスタイルを創ってゆく、そのきっかけとなる仕掛けをたくさん用意しました。」
（長積教授）

アリーナ
文部科学省のCOI（Center of Inovation）の支援を受けて設置された、指向性スピーカーシステム。限定された範囲だけをカバーすることで、空間を有効に使うことができる。

アクティブスペース

トレーニングルーム

アクティブデッキ

リラックスコモンズ

1階の通りから見える場所に、「リラックスコモンズ」というスペースがあります。この空間が、施設のコンセプトに大きく係わっています。
「もともと、この敷地は緑地で、フロントアベニューは正門からまっすぐ伸びていました。学生は自転車通学者が多く、正門横の駐輪場に駐めて、このアベニューを歩きます。そこで、正面に芝生広場を作り、人の流れをスポーツ健康コモンズに沿う形にしました。リラックスコモンズはテラスデッキを介して通りに繋がり、登下校の際に気軽に立ち寄ることができます。」
（安原さん）

4月には「知るカフェ」がオープンし、企業のセミナーの開催や学生への情報提供などキャリア支援にも貢献できる場となります。学外、地域との連携の可能性を感じる空間です。
「大型スクリーンが設置されてますから、パブリックビューイングもできます。見ることでもスポーツに触れる機会にもなります。部屋の窓からはアリーナの様子が見えますから、本を読んでいた学生が、ちょっと運動してみようかと思ってくれるといいですね。施設に抵抗なく入って来られる、ふらっと寄って新しい発見や気づきがある、そんなことを目指しています。」
（長積教授）

外部空間と繋がるデッキ

やわらかい光が差し込む
落ち着いた空間

和の空間

立命館大学「BKCスポーツ健康コモンズ」

滋賀県草津市
立命館大学 びわこ・くさつキャンパス

教育・研究機関が始めるプログラム

「この施設で、スポーツや健康づくりに多くの人が参加してもらうためには大学ならではのエッセンス、付加価値を加えることが大切です。他の民間フィットネスクラブと同じことをしては意味がないと思っています。専門的な、学術的な見地からアドバイスができるプログラムは大きな効果を期待できます。ちょっとしたウォーキングの方法だったり、けがをしないためのストレッチなど、組み合わせと仕掛けで新しいノウハウが生まれます。それをまた、民間企業へも提供していきたいですね。
スポーツが普及することで、新しいコミュニティができる、健康ライフスタイルが生まれる、学外の企業との連携や地域との関係もより強くなっていく。そう考えています。」（長積教授）

期待される新しいヤマハＦＲＰプール

屋内25m公認プール
洗面化粧台
ロッカー室

「プールは、水泳部、水球部の練習だけでなく、トライアスロン部やアメフト部、ラグビー部などのトレーニングにも使われています。一般の学生や、職員の利用者も増えています。今後は、泳げない人が水に親しめるプログラムなども考えています。授業にも、アクアビクスが取り入れられました。大学ならではのプログラムで、地域の人にも参加してもらえるようにしたいですね。」（長積教授）

屋外50mプール

ＢＫＣスポーツ健康コモンズ事業の中で、プールは重要な役割を担うべく、大きな期待を持って計画されました。これまで民間のスイミングクラブのプールを借りて練習を行っていた体育会水泳部をはじめ、水泳や水中運動を取り入れたトレーニングメニューに取り組んでいる他の体育会クラブ、サークルの活動の幅を大きく広げることができます。
また、計画にあたって、学生の健康診断の結果をふまえたプール利用のアドバイスなども検討されています。

プールの活用は、スポーツ健康科学部を中心とした研究分野にとっても大きな意義を生むことになります。水中での動作解析など基礎的な研究や、水中運動を通しての授業展開など研究の幅が大きく広がる可能性が期待されています。

ヤマハスクールシリーズプール6000基目となったプール

プールを初めて、工業製品ととらえて開発された「ヤマハＦＲＰスクールプール」は、素材の優位性と高い品質で1978年の発売以来、6000基の納入実績を達成し世界でも類をみないベストセラープールとなりました。その記念すべき6000基目のプールが、立命館大学「ＢＫＣスポーツ健康コモンズ」に納入された屋外50mプールです。

事例紹介

大水深訓練用プール ― 福岡県消防学校 ―

福岡県消防学校は、県内25の消防本部の職員を対象に知識や技能の教育訓練を行っています。福津市西福間にある現在の施設は、築後43年が経過し、消防防災へのニーズも大きく変わってきました。また、東日本大震災では、新たな課題も判明しました。これらに対応できる規模と新たな教育訓練施設が望まれていましたし、施設の老朽化も大きな問題でした。
そして、平成29年4月に嘉穂工業高等学校（2007年の県立高校統廃合の実施に伴い閉校）の跡地、福岡県嘉麻市牛隈に新築移転することになり現在整備が進められています。新しい学校は敷地面積が65,995㎡（法面を除く）。これは現施設の約1.7倍、延べ床面積も16190.68㎡（一部既存校舎を再利用）と、2.4倍の大きさとなります。「倒壊家屋救出訓練施設」や、実際の民家を再現した「家屋火災訓練施設」など、これまでになかった新しい実施訓練施設も設置されます。

県内の安全と県民の安心を担う責任

教務課 課長 古賀裕之氏と、教官 武石泰典氏にお話を伺いました。
消防の仕事といいますと、消火・救急・救助活動が三本柱ですが、消防の仕事は多岐にわたっています。
「消防の仕事の第一は、火を消すということよりも、火事を起こさない、予防なんですね。予防の広報活動や、建築調査のための知識も必要になります。まずは一通りのことが一定のレベルまでできるようにならなければなりません。その後、実務を経験して専門分野へ進むことになります。」

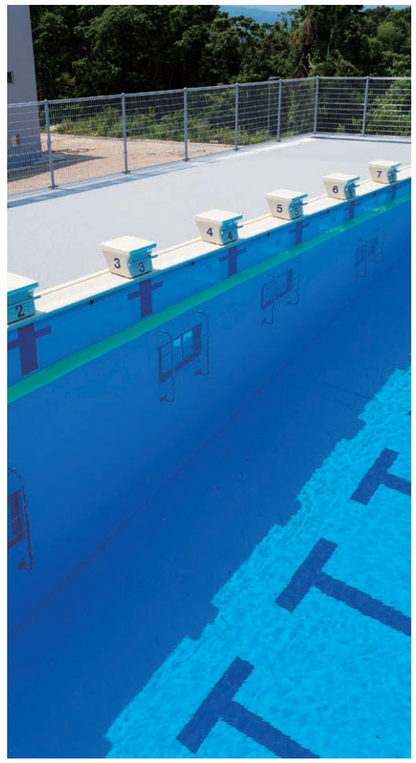
教官 武石泰典 氏

「新しく採用された職員の初任教育訓練は800時間、115日間行います。約半年間、全寮制です。法規、予防から消火活動訓練まで、30近くの科目数があります。」

水難救助教育

消防学校では、実務経験を積んだ職員がさらにその専門分野の高い知識と技術を修得するための教育訓練が行われています。水難救助教育もその重要なプログラムです。水難救助教育では、潜水救助に必要な知識・技術の習得を主たる目的としています。28年度は38名の消防職員が受講しました。
「海上保安庁、警察、自衛隊など組織によって救助の活動の場所や状況が異なってきます。消防の場合は、ターゲットを絞れないんですね。海、河川、溜池など幅が広く、いろんな条件で訓練ができる施設が必要となります。なにより、皆さんまず119番に連絡されますから迅速な人命救助が第一です。」

水深は、5.0m、3.0m、1.5mの三段階の設定で水深ごとに色分けが施され、プールサイドから水深の違いがはっきり認識できます。
水中窓と水中スピーカーが取り付けられ、安全管理にも配慮されています。



「今の学校は海に近いため、必要があれば海で訓練ができましたが、新消防学校は、内陸に位置しているため、プールは重要です。これまでと違った考え方が必要でした。円筒型のダイビングプールなど、さまざまな検討を行いました。特に水深にはこだわりました。材質も、メンテナンス性と水深変化に対応できる成形性の良さから、ＦＲＰに決まりました。」

新しいプールは、初任教育の授業でももちろん使われます。加えて水難救助訓練という重要な目的を担う機能とメンテンナンス性、大水深に対応する耐久性も必要になります。ヤマハのＦＲＰプールの技術がここでも活躍しています。